

## 口腔ケアとウイルス感染の関係性

プレジデントオンライン:発

新型コロナの死亡者から「歯周病菌」が大量に見つかった。

新型コロナウイルス感染症が初めて報告されてから、まもなく1年。世界で約5000万人が感染し、死者数は125万人を超えたが、いまだに感染の勢いは衰えていない。多くの犠牲者を出し続けているものの、一方でこのウイルスの正体も少しずつ解明されつつある。

今、あらためて話題になっているのが7月に英国の医学雑誌「ランセット」オンラインで公開されたレポートだ。レポートのタイトルは「The role of oral bacteria in COVID-19」(COVID-19での口腔内細菌の役割)。英国リーズ大学歯学部などの研究チームの報告だ。

**新型コロナウイルス感染症の死亡や重症化リスクを高める要因として**、これまで言われていた心臓病、高血圧、糖尿病などだけではなく、**口腔内細菌(歯周病菌など)も関係しているというのだ**。研究チームが新型コロナウイルス感染症で死亡した人を調べると、歯周病菌が大量に見つかったという。口腔内の衛生状態が悪い、つまり口の中が汚れていて歯周病などがある人は、感染した場合に重症化リスクが高まる可能性があることがわかった。

### 歯周病が感染リスクを高めることは「常識」

歯周病がインフルエンザの感染リスクを高めることは以前から知られていたが、このレポートによると、新型コロナウイルスでも同じことが言えるのだという。

歯周病研究の第一人者で日本歯周病学会元理事長の伊藤公一・日本大学名誉教授によれば、「歯周病がウイルスや細菌の感染リスクを高めることは、歯周病研究者や臨床医にとって、「常識」と言えます。多くの論文もあり、古くは100年前のスペイン風邪(インフルエンザ)でも、むし歯や歯周病のある患者はインフルエンザに感染しやすいという報告があるくらいです」という。

では、なぜ歯周病がウイルスや細菌の感染を助長するのだろうか。

伊藤名誉教授によると、主な原因は歯周病菌が出す毒素や酵素、さらに歯周病による歯茎の炎症が関係しているという。

「歯周病菌はプロテアーゼという酵素を出しますが、これが粘膜を傷つけてウイルスを侵入しやすくしています。また、歯周病で歯茎に慢性的な炎症が起きていると炎症物質(IL-6)が産生され、ウイルスによる感染を促進するのです」(伊藤名誉教授)

日本では、歯周病は20歳代で約7割、30～50歳代は約8割、60歳代は約9割がかかっているとされる「国民病」だ。世界で最も多い感染症としてギネスブックにも登録されているほどで、世界中で流行を繰り返すインフルエンザ患者数よりも多いとされている。

**新型コロナもインフルエンザも歯周病が原因で感染しやすく重症化しやすいなら、口の中を清潔にして歯周病治療や予防をすれば、インフルエンザや新型コロナ感染症予防にもなるわけだ。**

# 口の中を清潔にするだけで 予防効果が期待できる

歯周病が口の中だけの病気ではなく、心臓病、糖尿病、肺炎、認知症、早産、がん、肝炎などの病気のリスクを高めたり悪化させたりすることは、1990年代から知られていた。

高齢者に多い誤嚥性肺炎が歯周病や口腔内細菌と関係があること、さらに歯科衛生士による口腔ケアで口の中を清潔にするだけで予防できることも、この頃から次第に明らかにされてきた。

もう一つ、感染症予防で忘れてはいけないのが、唾液の効用だ。

唾液には天然の抗生物質といわれるラクトフェリンや免疫物質IgA抗体など細菌やウイルスの侵入を防ぐ物質が含まれ、傷ついた粘膜を修復する働きがある。また、発がん物質の毒性を消す酵素の存在も確認されている。

唾液が減少すると口腔内細菌が繁殖しやすく、口の中の粘膜も傷つきやすくなる。そうするとインフルエンザや新型コロナウイルスが侵入しやすい環境になってしまうのだ。

つまり、唾液が減少して口の中が乾くドライマウスの方は、インフルエンザや新型コロナウイルスに感染しやすいといえる。

新型コロナ感染症やインフルエンザ予防の基本は「**ワクチン、マスク、手洗い**」とされているが、ここに**口腔ケア**を加えると効果はより高まる。ワクチンや治療薬の効果も限定的だ。まずは手軽にできる予防から始めてみてはどうだろう。

プレジデントオンライン

## 東洋医学で言う「未病」「予防」とは

人には自然と調和する能力があります。「精神-体-免疫」このバランスが大切です。これを恒常性と言います。この恒常性の均衡が偏ると身体に変化が起こります。

コロナウイルスのパンデミックは歴史の経験上に存在しないため、今までの人類の英知(医学)でなかなか解決できずにいます。

コロナウイルスの症状はその人の環境や病態から生じていると考えられます。

東洋医学では症状の無い病態に入る前を**未病**と言います。口腔ケアにより未病は予防にも病気にも変化します。口腔ケアの重要性がさらに増してくると考えられます。



NPO法人 JAOS理事長  
歯学博士 渡辺 秀司



## NPO法人 日本・アジア口腔保健支援機構 マスティック臨床研究会

※歯科におけるプライマリケアを実践するために発足した研究会。天然生薬マスティック樹脂(漢名:洋乳香)を安全、効果的に利用することで家庭内医療の充実を図り、治療の継続性が保たれることを目的とします。

〒245-0061 横浜市戸塚区汲沢1-10-46



※お問い合わせはマスティック臨床研究会HP内「問い合わせ専用フォーム」よりお願いします。

[https://g-mastic.gr.jp/mastic\\_05/contactus.php](https://g-mastic.gr.jp/mastic_05/contactus.php)